



石岡市の景観まちづくり



石岡市景観基本計画（概要版）

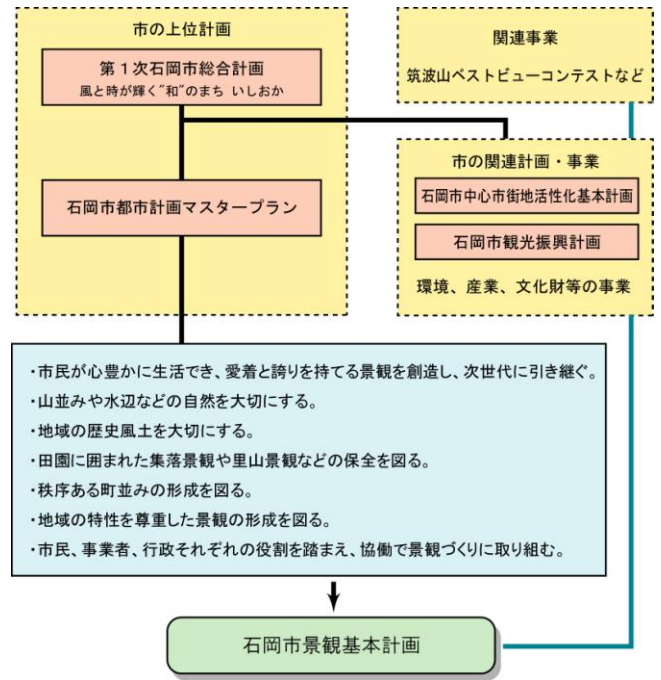
平成21年3月
石岡市

1. 目的

豊かな常陸国の国府が置かれた石岡市は、自然や、歴史的建造物、暮らしの賑わいなど、都市環境の向上を図るうえでの良好な景観の資源に恵まれています。

「良好な景観」は、人によって受け止め方は様々ですが、各個人の“原風景”と呼べるものは、おおむね10歳までに形成されるといわれています。代々の人々により積み重ねられた生きた証である景観を大切にしながら、子どもたちに豊かな“原風景”を与えることは、多くの市民に共通の思いであると言えます。景観とは、単なる好みで判断されるものではなく、科学で普遍性を追求する対象であり、人々に価値あるものであるといえます。

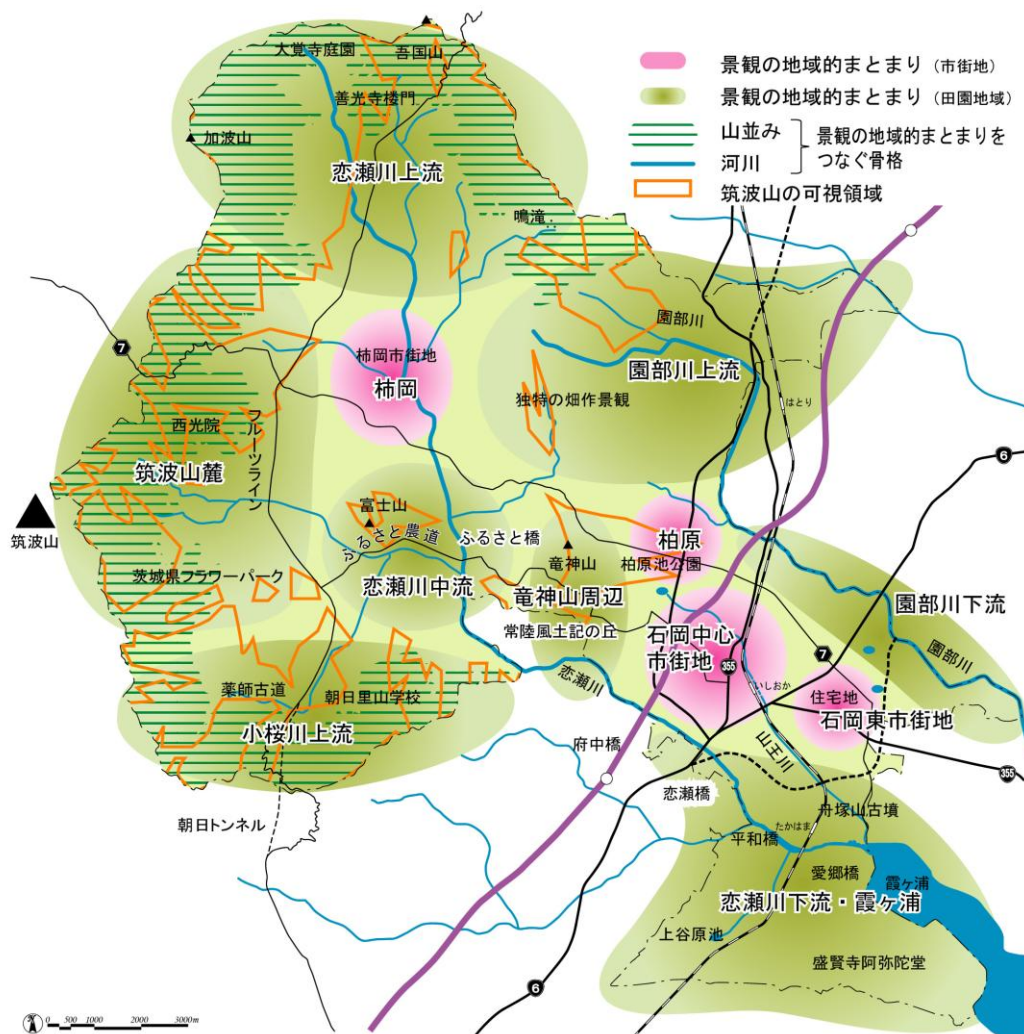
本計画は、本市における良好な景観を形成するために市民、事業者、行政が力を合わせて取り組む共通の方向性を明確にし、体系的な施策を整理するものです。



上位・関連計画から踏まえる条件

2. 石岡市の景観の現状と課題の整理

景観特性の総括図



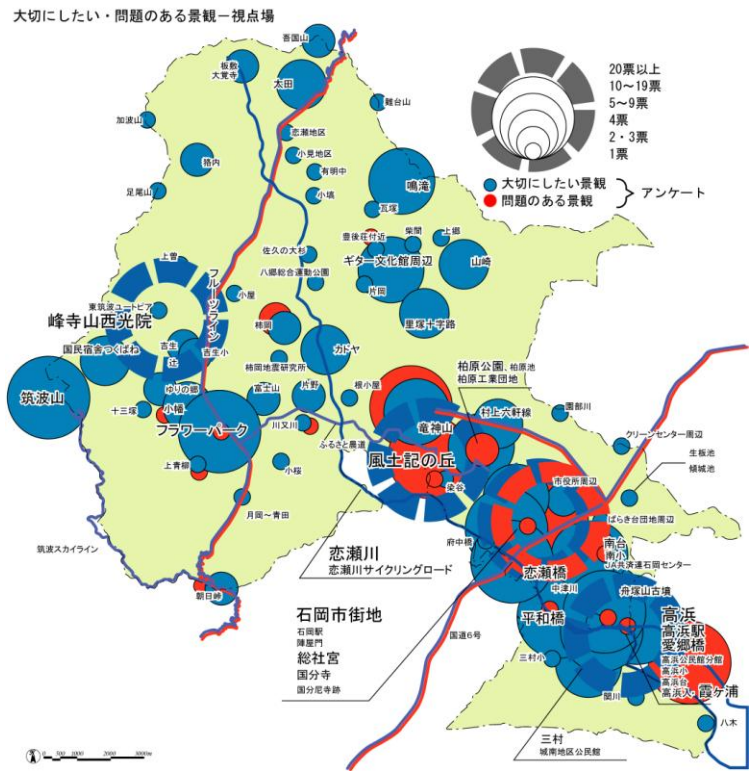
石岡市には、自然や歴史等、様々な景観の特徴があります。石岡市の景観の特性は、自然・人工物を主として捉えられる地域的まとまりや、山並み・河川の骨格によって整理できます。

自然を主とする地域は、地形によって、人工物を主とする市街地は、建ち並ぶ建築物の用途によって、それぞれ印象が異なる景観の地域的まとまりが捉えられます。

空や山上から見下ろす景観や遠望する（見上げる）景観には、緑の山並みと河川を大きな骨格として感じ取ることができま

す。山並みや河川の骨格は市内の様々な景観資源や地域的まとまりに対して、つなぎの役割を果たしているということがいえます。

これら様々な地域における自然・人工物の景観や、骨格となる山並みや河川の景観は、アンケートの結果においても、市民の多くの方々から大切な景観として捉えられています。



景観形成に関するアンケート調査

石岡市の景観形成について、課題の一つは、市内各地の景観資源をつないでいくための「骨格からの景観形成」です。市民の多くが、市内各所の景観から見える山並みを大切に感じています。恋瀬川をはじめとする水系を軸にその眺望点が分布しており、この眺望点を中心に、景観づくりを進めることで、市域全体の様々な景観資源が繋がります。

二つ目は、「地域からの景観形成」です。市民が大切と感じる景観をよりかけがえないものとして感じられるような景観づくりを、各地で通学路など身近なところから進めていくことが大切です。

三つ目は、「協働による景観形成」です。市民、事業者、行政の協働ということが、景観形成の基本であり、みんなで取り組むことが、ひいては地域の活性化にもつながり、結果的に担い手不在による問題点までも解消されることにつながります。

